



©UNHCR/V.Tremeau

6月20日は「世界難民の日」

新型コロナウイルスの危機の中で

#一人ひとりにできることを #EveryActionCounts

紛争、宗教や人種、政治的な意見の違い…

世界にはこうした理由で、安全を求めてふるさとを離れなければならない人がいます。

その半分以上は、18歳未満の子どもたちです。

そして今、故郷を追われた人たちは、さらなる危機に直面しています。新型コロナウイルスの感染拡大です。避難先の8割以上は開発途上国で、医療や衛生へのアクセスが十分ありません。

この危機に打ち勝つには、世界全体の連帯が必要です。6月20日の「世界難民の日」、日本からの連帯の証しとして、全国各地のランドマークが国連カラーの“ブルー”に染まります。誰一人取り残さないために一。「世界難民の日」をきっかけに、一人ひとりができること、一緒に考えてみませんか？



UNHCR
The UN Refugee Agency

UNHCR (国連難民高等弁務官事務所)

紛争や迫害を逃れた難民、国内避難民などを保護・支援するため、世界約134カ国で活動。基本的人権の擁護、生活再建などに向け、問題解決に取り組む。

1954年、1981年にノーベル平和賞を受賞。本部はスイス・ジュネーブ。

6月20日「世界難民の日」 日本全国がブルーに染まります！

ブルーライトアップ実施場所(予定)

- ①北海道 さっぽろテレビ塔(札幌市)
- ②岩手 奇跡の一本松(陸前高田市)
- ③宮城 仙台スカイキャンドル(仙台市)
- ④福島 会津若松城(鶴ヶ城、会津若松市)
- ⑤茨城 水戸芸術館タワー(水戸市)
- ⑥東京 東京都庁第一本庁舎(新宿区)
- ⑦東京 東京スカイツリー®(墨田区)
- ⑧東京 NTTドコモ代々木ビル(渋谷区)
- ⑨東京 東京ドーム外周部ケヤキ(文京区)
- ⑩山梨 富士山レーダードーム館(富士吉田市)
- ⑪富山 インテックビル(タワー111、富山市)
- ⑫愛知 ツインアーチ138(一宮市)
- ⑬京都 東寺 五重塔(京都市)
- ⑭兵庫 明石海峡大橋(神戸市/淡路市)
- ⑮兵庫 神戸ハーバーランドumie
モザイク大観覧車(神戸市)
- ⑯大阪 南海ビル(大阪市)
- ⑰岡山 岡山城(岡山市)
- ⑱広島 海田大橋(広島市/坂町)
- ⑲山口 海峡ゆめタワー(下関市)
- ⑳高知 高知城(高知市)
- ㉑長崎 稲佐山山頂電波塔(長崎市)
- ㉒長崎 眼鏡橋(長崎市)
- ㉓大分 別府タワー(別府市)

あなたの周りの
ブルーを撮影して
SNSでシェアしてください！
ハッシュタグは
#一人ひとりにできることを

詳しくは
UNHCR駐日事務所の
ウェブサイトで



日本全国にすでに広がっている難民支援の輪。 「世界難民の日」に各地を照らすブルーは、 難民支援に携わる人たちの想いを紡ぐ光でもあります。

大学

日本に逃れてきた難民が 学び続けられるように

学校法人関西学院理事長 平松 一夫さん

大学としてできることがあるかもしれない—その思いから、UNHCRとの連携で難民を対象とする奨学制度*が生まれました。2007年以降、ベトナムやミャンマーからの難民を学生として受け入れてきた中で、学内では自然と難民への理解が深まっています。学生有志が難民支援組織も立ち上げ、難民の学生と共に彼らの故郷の味を学食で提供し、寄付を集める活動なども行っています。始まりから13年、難民の学生への支援が全国に広がりうれしく思います。

*UNHCR難民高等教育プログラム(Refugee Higher Education Program - RHEP)。参加校13校(2020年4月現在)



©関西学院

企業

全社で作り上げる 難民支援のかたち

株式会社ファーストリテイリング*
サステナビリティ部 但野 嘉名子さん

当社が展開するユニクロ・ジーユーでは、お客様からご不要になった服を回収して難民の方に届ける活動や、難民を店舗で雇用する取り組みを行っています。またUNHCRの協力の下、難民キャンプの訪問を従業員の教育機会とし、現地でも感じたことが、毎年の世界難民の日のキャンペーンに提供し、生かされることも。日常着として親しまれている当社ブランドを生かし、お客様に難民問題を身近に捉えてもらえるような情報発信にも注力しています。

*2011年にアジアの企業で初めてUNHCRとグローバルパートナーシップを締結。資金協力に加え、「全商品リサイクル活動」、難民雇用の「RISEプログラム」、国内の小中高校への出張授業など多角的に難民支援に取り組む



©UNIQLO

学生団体

小さな力の積み重ねで 世界を変える

東京大学法学部 櫻井 健太郎さん

ジェーファン ユース
J-FUN Youthは日本各地の大学の学生で構成される団体で、ミャンマー難民2世の子どもたちへの学習支援や世界の難民に関する情報発信などを行っています。難民支援で大切なのは、衣類回収への協力や募金など、小さなアクションを起こすこと。その積み重ねが難民の笑顔につながれば、きっと自分自身も幸せな気持ちになれるはず。学生だからこそ持てる柔軟な発想を大切に、難民問題にアプローチしていきたいと思っています。



▲定期的な難民支援活動の他、学生同士での勉強会や高校への出張授業などを実施。今年も「世界難民の日」を盛り上げる企画を展開します

個人

「大切な命の助けに」を寄付で

ご寄付くださった方の声

「UNHCRのことは街頭の寄付呼びかけで知りました。難民問題を自分事にするため、月々の寄付に参加します」(60代)
「一人でも多くの難民の方々に温かい食事や衣類を届けてください」(40代)

「アルバイトを始めてお金ができたので、自分のためだけでなく、何かできたらいいなと考えました」(10代)

「命の尊さは皆同じなのに、お金や居場所が無いという理由で落としてしまう命がある。少しの力ですが、協力したいです」(30代)



©国連UNHCR協会

▲UNHCRの活動は皆さまからのご寄付に支えられています

今こそひとつになるう

～新型コロナウイルス危機下で難民アスリートが発信～

世界的な脅威となっている新型コロナウイルス。誰もが感染のリスクがあり、その中には、紛争や迫害により故郷を追われた難民や国内避難民、無国籍者なども含まれています。難民キャンプなど、脆弱な環境下で暮らす人々は特に高い感染のリスクにさらされており、世界は健康上の脅威と同時に、人道危機に直面しています。

UNHCRは故郷を追われた人々を守るため、各国政府やパートナー団体と連携しながら懸命に活動を続けています。

そして難民自身も、この危機を受け入れコミュニティの人々と乗り越えようと、感染リスク

の高いお年寄りの代わりに買い物に行ったり、マスクや防護具を手作りして配ったりするなどの行動を起こしています。「難民という境遇を生きてきたからこそ、“危機”や“手を差し伸べること”の大切さが分かる」とシリア難民の男性は話します。

この危機に打ち勝つには国際社会が一体となり、“誰一人取り残さない”ために、一人として差別・区別されることなく保健サービスや必要な支援にアクセスできるよう、みんなで力を合わせていくことが大切です。

今年3月、エチオピア出身の難民アスリート、ヨナス・キンディ選手は、新型コロナウイルス感染拡大の影響が懸念される中、難民アスリートとして初めて東京マラソンに出場しました。「走っている間ずっと、安全と平和を求めて国境を越えなければならない世界の難民の子どもたちのこと、新型コロナウイルスの影響を受けた人たちのことを考えていました」。現在はルクセンブルクで東京五輪を目指してトレーニングを続けながら、この危機を乗り越えるためにひとつになるうと発信を続けています。



©UNHCR/LIFE 14

リオ五輪で初めて結成された「IOC難民五輪選手団」（難民選手団）の一員でもあるヨナス選手。「どんな状況でもあきらめずに闘い続ける。希望はそこにあるのだから」

ご寄付に関するお問い合わせ・お申込み

日本では、国連UNHCR協会がUNHCRの公式支援窓口として広報・募金活動を行っています。皆さまからのご寄付はスイス・ジュネーブのUNHCR本部へ送金され、世界各地の難民支援活動に役立てられます。

国連UNHCR協会 ゴシェン ナンミンニ 通話料無料 **0120-540-732** または **03-4366-7373** (平日10時～19時)

国連UNHCR協会は認定NPO法人です。ご寄付は税控除の対象になります。

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 駐日事務所

〒107-0062 東京都港区南青山6-10-11 ウェスレーセンター
TEL: 03-3499-2011 協力: 国連UNHCR協会

 <https://www.unhcr.org/jp/>

 @unhcrorj  @UNHCR_Tokyo

